

平成25年度学長裁量経費研究推進支援プロジェクト研究成果報告書

1. 研究の概要

プロジェクト名	地域文化財のデジタル化に関する基礎的研究		
プロジェクト期間	平成25年度		
申請代表者 (所属講座等)	松久公嗣 (美術教育講座)	共同研究者 (所属講座等)	
取組方法・取組実績の概要	<p>本研究では、科研費研究で得た研究成果及び研究対象となる文化財について、高度なデータ化とタブレット型デジタル端末を想定した教育的活用法の確立を目的とした基盤研究を行った。研究対象となる宗像大社儀式殿内の御便殿および侍従控えの間に現存する襖絵（4面×2点）と腰障子絵（8面）について、デジタル化に適した機器の選択や予算の明確化、デジタル化に係る問題点の抽出を行い、科研費申請に向けた具体的かつ綿密な社会への研究成果の還元計画を策定した。</p>		
研究成果の概要	<p>本研究では、科研費研究の対象としていた文化財の高解像度データ化について、必要となる予算の確定とその予算で得ることのできるデータ内容の検証を行った。3つの企業について、データ処理のクオリティや機器の扱いやすさ、文化財への安全的な対応について検討し1社を選定した。この企業は移動式の大型スキャナを有しており、文化財を輸送することなく現地においてデータ化することが可能で、文化財に対する負担は大幅に軽減される。今回対象とする文化財は絵具の剥落が顕著で、輸送による振動を極力避けたい。また、輸送費と業者の出張費を比較したところ、文化財の輸送費は格段に高価であり、対費用効果を考慮するとこの企業との連携が最も有効であると判断した。さらに、他の文化財に対しても既に幾つかの実用実績があることから、一定の専門性と安全性が認められた。</p> <p>7月～8月に現地調査を開始し、9月25日～27日にデータ化を行った。10月にデータ内容を基とした教育的活用法との整合性を検討し、具体的な工程や経費をまとめて次期科研費研究の申請に反映させた。科研費研究申請時に具体的かつ綿密な「研究計画・方法」、「準備状況及び研究成果を社会・国民に発信する方法」を策定し記載するための基盤研究であり、平面的あるいは立体的な文化財をデジタル化するに当たって解消すべき問題点の抽出と、関係する経費を含めた現実的な方策を明らかにすることが目的であることから、実際にデジタル化したデータを活用した教材開発ならびに実践は、現プロジェクトを発展させた大型プロジェクトとして次期科研費研究課題において計画・提案する。</p> <p>また、研究の成果を社会に還元するモデルを提示することは本研究のみならず全ての研究において意義があり、研究の社会的貢献度を高めるものである。</p>		
外部資金獲得申請及び研究成果の公表方法等について〔 <input type="checkbox"/> （該当事項）にチェック方願います。〕			
外部資金獲得申請（予定）	<input checked="" type="checkbox"/> 科学研究費補助金 <input type="checkbox"/> 受託研究費 <input type="checkbox"/> その他 ()	研究成果の公表方法（予定）	<input checked="" type="checkbox"/> 学会（国内）：大学美術教育学会（予定） <input checked="" type="checkbox"/> 新聞・図書・雑誌論文等：展覧会の取材等 <input checked="" type="checkbox"/> その他：平成26年6月（展覧会の開催）